

「現地を訪問して想うこと」

若木 嘉浩（1963・法）
福島県コース参加

一度行ってみたいと思っていた被災地訪問が実現した。生まれて初めて福島を訪れた。

【浪江町】

郡山からの道すがら、車窓には一見どこでも見かけるような農村の風景が広がる。田畑の所々に住宅などの建物が点在する・・・・しかし、道路沿いに設置されたモニタリングポストが0.12だののコンマ以下値から3.45マイクロシーベルトさらには10～と桁違いの放射能測定値を次第に高く表示し始めるころ、避難区域に入りましたと知らされる。その景色にはそれまでとの違いが現れる。住宅の屋根のシートは？地震で損傷したまま補修されていないのだ。黒い大きな袋があちこちにあるのは？除染廃棄物（表土を5cm厚で削り取るなどした汚染ゴミ）が未だ中間処理施設がないため各所に仮置きされているのだという。人がいない。行き交うのは除染作業の関係車両ばかり。徒歩、自転車、バイクの通行は禁止！その許可なしでは立ち入れない浪江町の、被災の状況をそのまま留めた街の様子を見学した。町の入口には警官が立ち、幹線道路から脇道への入り口もガードされている。住民が避難した地域には全国の窃盗団が殺到し、福島県警だけでは対応しきれなかったという（阪神淡路でも東北でも被災した人たちの整然とした態度は称賛されたのに）。だから今なお、要所で警備員が監視し、パトカーが巡回し続けている。

【ホテルハワイアンズ】

夜、宿泊先のホテルハワイアンズで当時の下山田支配人のお話を伺った。雪の降る寒い日だったその時、取り残された630名の客を1人の死傷者も出さず無事東京などに送り届けたという苦労談は感動的だった。「安全の確認できないことはしない」を玉条に、情報のない中で従業員と心を一つに対応しえたのはまさに氏の人徳によるものだろう。その後半年近くも避難住民を受け入れるなど支援し続けた後、営業を再開し、私たちの泊まった日も多くの客で賑わっていた。フラダンスショーは素晴らしかった！

【あかい菜園】

頑張っている福島の一例として視察させていただいたトマト菜園は、自動化され、無機的という意味ではトマト工場と呼ぶべきほどに最新の設備・技術が取り入れられていた。自動化された環境管理、無人ロボットによる品質診断。若い社長は、売れなくなった風評被害をのりこえるために、品質をさらに高め、安全性を納得してもらおう努力を続けてきたと語った。日経紙の一面も飾ったらしいその説明を聞きながら私の頭に浮かんだのは、「ピンチこそチャンス」という標語だ。もしそんな出来事がなければ会社は従前どおりの栽培をしていたかもしれない。思いもよらない逆境に立たされることによって、それを克服するための工夫や研究がなされたのだ。お土産に頂いたトマトに「きれい！」と目を見張った娘は頬張って「甘い！」と感激した。

それにしても、原発による汚染の除去はいつ果てるともしれない困難なものなのに、なおその電力に頼ろうとする気が私には知れない。代替エネルギーは多様にありうるだろうし、よしんば本当に不足するのなら皆が真剣に節電すればよいだけではないか。ツアーでことさら触れる人は誰もいなかったのだけれど、私はその思いを一層強くして帰路についた。